

1 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の目的

- (1) 子供の体力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

～「平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領」（文部科学省）より～

2 高松市教育委員会としての方針

- (1) 児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣、食習慣等の改善については、地域や家庭等の理解や協力を得ることが必要であると考え、本調査のうち、主な項目を公表する。
- (2) 毎年、全学年で実施している新体力テストの結果を各学校に周知することで、各学校の体力向上の取組に役立っていることから、今回の調査結果も、運動習慣等と体力を関連づける貴重な資料ととらえ、体育や健康に関する指導の改善に生かしていく。

3 調査内容

(1) 調査対象者

小学校第5学年及び中学校第2学年の全児童生徒を対象とする。

※ 体調不良等により、一部又は全部の項目を実施できていない児童生徒を除く。

4 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

① 実技に関する調査

小・中学校各8種目

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ（小学生）、ハンドボール投げ（中学生）

② 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

(2) 学校に対する質問紙調査

5 結果の分析（児童生徒に対する調査）

(1) 実技に関する調査（P1～6）

① 小学5年生

ア 男子は、体力合計点が全国平均を下回っている。種目別では上体起こし、50m走は、全国平均を上回っている。握力、長座体前屈、20mシャトルラン、立ち幅とび、ソフ

トボール投げは全国平均を下回っている。

イ 女子は、体力合計点が全国平均を下回っている。種目別では、上体起こし、長座体前屈、ソフトボール投げは全国平均を上回っている。握力、反復横とび、20mシャトルラン、立ち幅とびは、全国平均を下回っている。

② 中学2年生

ア 男子は、体力合計点は全国平均を下回っている。種目別では、反復横とび、立ち幅とび、ハンドボール投げは全国平均を上回っている。握力、上体起こし、長座体前屈、20mシャトルランは、全国平均を下回っている。

イ 女子は、体力合計点は全国平均と同程度である。種目別では、反復横とび、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げは全国平均を上回っている。握力、上体起こし、長座体前屈、20mシャトルランは全国平均を下回っている。

(2) 運動習慣等調査 (P7～36)

① 「生涯にわたって運動やスポーツをしようとする意欲」

「中学校で授業以外に自主的に運動したい」と回答した小学5年男子は72.0% (全国平均73.9%)、小学5年女子は61.4% (全国平均62.2%)、「中学校卒業後に自主的に運動したい」と回答した中学2年男子は64.8% (全国平均66.5%)、中学2年女子は52.0% (全国平均50.6%)となっている。中学2年女子は、自主的に運動したい意欲が全国平均より高い傾向が見られる。

② 「家庭や地域でもっと運動するようになる条件整備」

中学2年男女において運動を行う者と行わない者との2極化の傾向が見られる。特に、「1週間の運動総時間数60分未満」の中学2年女子の割合が22.4%と全国平均21.8%より高い。

家の人から積極的な運動のすすめが「よくある、ときどきある」と回答した小学5年男子は、63.6% (全国平均63.6%)、小学5年女子は55.7% (全国平均56.2%)、中学2年男子は57.7% (全国平均57.9%)、中学2年女子は56.3% (全国平均53.3%)となっている。中学2年女子は、家の人から運動をすすめられる割合が全国平均より高い。

③ 「体育・保健体育の授業の充実」

「体育・保健体育の授業が楽しいか」に対して「楽しい・やや楽しい」と回答した小学5年男子は93.8% (全国平均94.9%)、小学5年女子は91.0% (全国平均91.1%)、中学2年男子は91.4% (全国平均89.1%)、中学2年女子は88.3% (全国平均82.7%)となっている。特に中学2年女子は「保健体育の授業が楽しい」と答えた割合が、全国平均を大きく上回っている。

(3) 本市の平成25年度調査との比較 (P37～43)

本市の平成25年度の記録と比べてみると、小学5年女子は、8種目中3種目の記録が向上している。

6 結果の考察

(1) 実技に関する調査

体力合計点においては、小学5年男女、中学2年男子が全国平均を下回っており、項目別にみて、握力と20mシャトルランの項目が小学5年・中学2年男女ともに全国平均を下回り、筋力・持久力が必要な種目が低水準になっている。原因として、小学5年生で「運動がやや苦手・苦手」と答えた児童の割合が、また、中学2年生でも「運動がややきらい・きらい」と答えた生徒の割合が全国平均より高いことから、運動に対して苦手意識をもち、あまり運動を行わない人が増え、全体的数値の低下につながっていると思われる。

(2) 運動習慣等調査

中学生の「保健体育の授業が楽しい」と答えた生徒は、男女ともに全国平均を上回っており、日々の授業の工夫の成果が表れている。今後は、「生涯にわたって運動やスポーツをしようとする意欲」を高めるために「家庭や地域でもっと運動するようになる条件整備」や「体育・保健体育の授業の充実」などの視点から運動習慣を改善する取組を、家庭と連携して継続して行うことが必要である。

また、小学生においては、低学年での運動の機会を増やし、運動量を確保することが課題である。

7 今後の対策

(1) 実技に関する調査

① 小学校

「1校1運動」など、各校独自の体力づくりの取組を見直し、今後より改善して継続した実践を行っていく。また、「こつ伝授第4集～体力・運動能力編～」の活用を図り、児童の体力向上や運動の習慣化をめざす。

教科指導においては、ペア学習やグループ活動を積極的に取り入れ、教科の特性に触れさせ、運動のコツやポイントを理解させる。「できる」充実感や達成感を味わわせ、運動の楽しさを実感させる。

② 中学校

運動を活発に行う者とあまり行わない者との2極化傾向が見られるので、部活動だけでなく、教育活動全体を通じて体育活動を計画的・実践的に行うように年間指導計画の見直しを行っていく。

また、楽しい雰囲気の中で運動に親しむ授業改善を図る。今後も、実技研修会に積極的に参加し、教員の資質の向上を図る。

(2) 運動習慣等調査

小学校では、児童の基本的運動習慣の確立をめざして、運動・栄養・睡眠の重要性に着目し、各校において、運動習慣等のデータを参考に、「一日の運動時間の確保」や、「外遊びの呼びかけ」等について、家庭とも連携した体力づくりの推進と改善に努める。

また、中学校では、体育の授業の充実や部活動のあり方を考慮し、今後も引き続き、運動をよく行う者と行わない者との2極化の解消に努める。

8 今後の高松市の取組

(1) 小学校

① 情報提供による各校の体力向上策として活用。

ア 「こつ伝授第4集～体力・運動能力向上編～」をホームページに掲載して情報提供。

イ 「1校1運動」の成果や取組状況を集約し、情報提供。

② 実技伝達講習会の充実による指導技術の向上。

(2) 中学校

① 授業形態の工夫を推進する。

ア 導入時に筋力や持久力を高める運動を取り入れる。

イ 積極的に音楽やICTを活用する。

ウ 「わかる」、「できる」を実感できる授業となるために言語交流活動等を取り入れる。

② 実技伝達講習会及び武道実技伝達講習会の充実による指導技術の向上。